

答弁者 市長、教育長

1 協働、協創について

- (1) 平成28年度第2回定例会において答弁のあった、「平成29年度から着手する新たな総合計画」において、「協働」の定義が広義になるだろうということであったが、その進捗と「協働」についての基本方針を出すめどはどうか。また、昨年1年で、どのような議論が行われてきたか。
- (2) 「協働」を行う上で「合意形成」があり、「施策への反映」と「市民へのフィードバック」が大切と思う。この3点について、現状における当局の考え方と具体的な仕組み、それに伴う課題点と対応方針は何か。
- (3) 協働の先にある「協創」が重要と思うが、どのように考えるか。また、今後の見通しはどうか。

2 教育について

- (1) 教育行政方針演述において「中学校と高田高校による連携も推進」とあるが、今までの取組はどのようなものがあつたか。また、課題と今後の展望はどうか。
- (2) 気仙管内では、高校数が少ないことから中学時の進路選択で、生徒のその後の人生が大きく左右される。進路選択や進路相談における適切な情報、生徒への将来の選択肢の提供はどのようになされているか。
- (3) 教育行政方針演述において「キャリア教育を一層充実する」とあるが、今までの取組はどのようなものであつたか。また、課題と今後の展望はどうか。

3 交通まちづくりの考え方について

- (1) 高齢化が進む中で、本市はどのような交通政策を今後進めていこうと考えているか。
- (2) 高齢者が増え、自動車免許の返還なども今後進めて行く中で、高齢者の足をどのように確保する予定か。また、既存の公共交通では財源を含め限界があると考ええるが、打開策は何か。
- (3) 市民の移動手段の主流は、現在、自家用車であり、今後を考えると交通静穏化対策などを取らなければならないと感じるがどうか。また、移動距離に合わせた移動手段を市民が選択できる環境整備が必要と思うがどうか。
- (4) コンパクトシティを打ち出して中心市街地を形成しているが、市全体を考えれば、中心市街地までの移動距離が長い地区もあり、コンパクトシティではないように感じる。その上で今後の交通まちづくりにおける必要な視点は何か。